

病害虫発生予察情報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

6月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	いもち病（葉いもち）	並	並	果樹	果樹共通	カメムシ類	多い	—	
	紋枯病	並	並		りんご	褐斑病	多い	—	
	斑点米カメムシ類					輪紋病	やや多い	—	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—			ハダニ類	多い	早い	
	アカスジカスミカメ	多い	—			キンモンホソガ	並	—	
	トゲシラホシカメムシ	多い	—			カイガラムシ類	少ない	早い	
	ニカメイガ（第一世代）	並	やや早い			日本なし	黒星病	やや多い	—
	イネミズゾウムシ	多い	—		輪紋病		やや多い	—	
	イネゾウムシ	多い	—		ナシヒメシンクイ		多い	—	
	イネドロオイムシ	並	並		ハマキムシ類		並	—	
	ツマグロヨコバイ	やや多い	並		カイガラムシ類		少ない	早い	
			ハダニ類		多い		早い		
大豆	茎疫病	並	並		ぶどう	灰色かび病	並	—	
	タネバエ	並	並			べと病	やや多い	—	
	ネキリムシ類	やや少ない	—		かき（三社）	フジコナカイガラムシ	やや多い	—	
野菜	野菜共通	タバコガ類	並			やや早い	もも	せん孔細菌病	並
		ネキリムシ類	やや少ない		—	ナシヒメシンクイ		多い	—
	白ねぎ	さび病	少ない		並	カイガラムシ類		やや多い	早い
		ネギアザミウマ	並		—	花き		球根腐敗病	やや多い
	ネギハモグリバエ	並	並		球根		アブラムシ類	並	—

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稻

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・近年のいもち病の発生は少ない傾向にある。(－)
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多く、気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・放置されている補植苗は、速やかに処分する。
- ・平年の初発日は7月9日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）に基づきほ場の見回りをを行い、早期発見・早期防除に努める。
- ・防除指針：32～33 ページ参照



図1 いもち病の病斑



BLASTAM 情報
(毎週火曜更新)

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年9月5日調査では発病株率が3.8%で平年(8.1%)より低かった。(－)
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多く、気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・平年の初発確認日は6月27日であることを踏まえて、ほ場の見回りを行う。
- ・防除指針：31～32 ページ参照



図2 紋枯病のり病株

3 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.9頭で平年(1.3頭)よりやや少なかった(図4)。(－)
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・防除指針：44、46ページ参照
- ・病虫害防除技術情報第1号参照

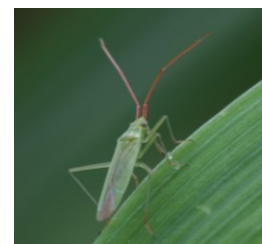


図3 アカヒゲホソミドリカスミカメ（成虫）

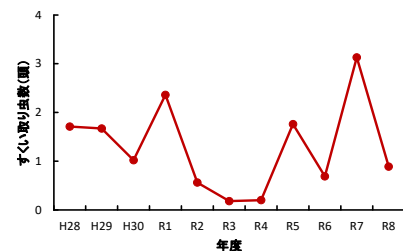


図4 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移（5月20日調査）

4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は12.9頭で平年(3.8頭)より多かった(図6)。(+)
- ・ 6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- ・ 6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・ 防除指針：44、46ページ参照
- ・ 病虫害防除技術情報第1号参照

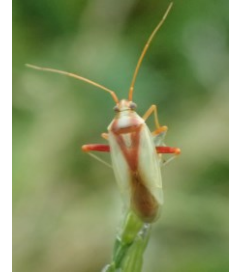


図5 アカスジカスミカメ(成虫)

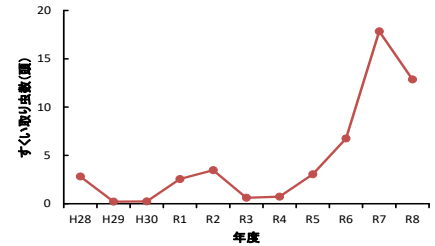


図6 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移(5月20日調査)

5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.33頭で平年(0.06頭)より多かった(図8)。
- ・ 6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- ・ 6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等はイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・ 防除指針：45～46ページ参照
- ・ 病虫害防除技術情報第1号参照

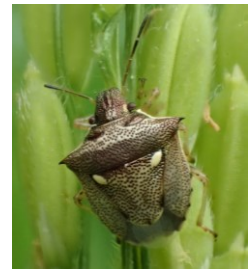


図7 トゲシラホシカメムシ(成虫)

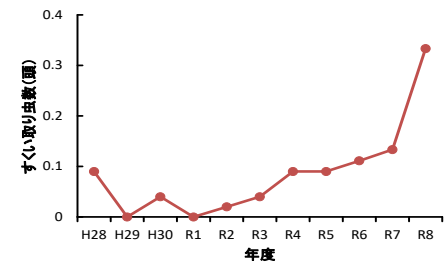


図8 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り虫数年次推移(5月20日調査)

6 ニカメイガ（第1世代）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の越冬前10 a 当り生幼虫数は606頭で平年（259頭）より多かった。（+）
- ・フェロモントラップによる5月1半旬から5半旬までの累計誘殺数は52頭で、平年並（61頭）であった。（図10）。（±）
- ・フェロモントラップ調査地点における発蛾最盛期は5月20日で、平年（5月24日）より早かった（早発）

(3) 防除対策

- ・前年に被害が多かった地域では、だらだらと幼虫が発生するため、箱施薬剤を施用した場合でも要防除水準（6月中～下旬時の被害株率が3%）を超える場合は、本田防除を実施する。
- ・防除指針：39～40 ページ参照



図9 ニカメイガ（幼虫）（左）と心枯れ被害（右）

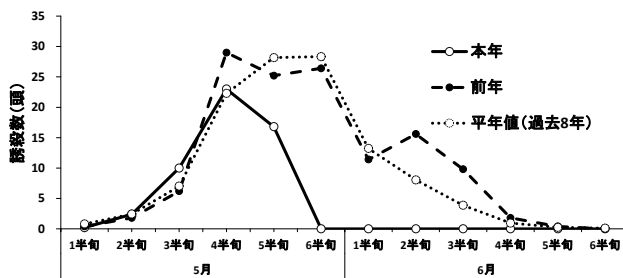


図10 ニカメイガフェロモントラップへの誘殺数の推移

7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・近年、イネミズゾウムシによる被害は増加傾向にある（+）
- ・5月20日の調査では、被害葉率は4.3%で平年（1.3%）より高かった（図12）。（+）

(3) 防除対策

- ・成虫の食害による被害が大きいほ場では、早めに中干しを行う。
- ・要防除水準（0.3頭/株）を超える場合は、粒剤による本田防除を実施する。
- ・防除指針：38 ページ参照



図11 イネミズゾウムシ（成虫）と食害

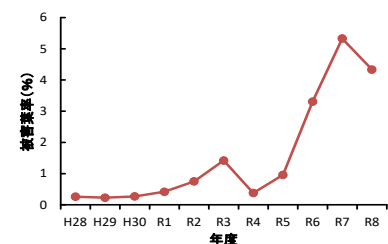


図12 イネミズゾウムシの被害葉率年次推移（5月20日調査）

8 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・近年、イネゾウムシによる被害は増加傾向にある（＋）
 - ・5月20日の調査では、被害葉率は0.21%で平年（0.03%）より高かった（図14）。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・成虫の食害による被害が大きいほ場では、早めに中干しを行う。
 - ・防除指針：38 ページ参照



図13 イネゾウムシ（成虫）

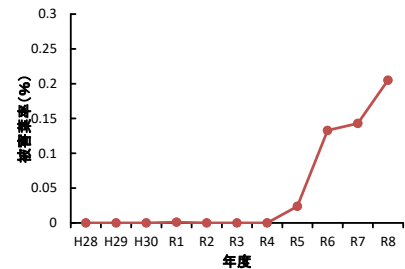


図14 イネゾウムシの被害葉率
年次推移（5月20日調査）

9 イネドロオイムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・5月20日の調査では被害は見られなかった。（－）
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：39 ページ参照

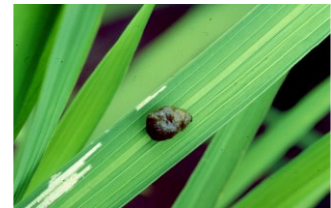


図15 イネドロオイムシ（幼虫）と食害

10 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・越冬後調査のすくい取り虫数は0.2頭で平年（0.1頭）より多かった。（＋）
 - ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（－）
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：41ページ参照



図16 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）
と雄成虫（下）

Ⅱ 大豆

1 茎疫病

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・近年の茎疫病の発生は少ない傾向にある。(－)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・茎疫病に登録のある種子塗沫剤を使用する。
 - ・ほ場の排水に努める。
 - ・防除指針：55～56 ページ参照



図 17 茎疫病の罹病株

2 タネバエ

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・近年のタネバエの被害は少ない傾向にある。(－)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・タネバエに登録のある種子塗沫剤を使用する。
 - ・早期播種や堆肥施用及び緑肥のすき込みほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
 - ・ほ場の排水に努める。
 - ・防除指針：55、57 ページ参照

3 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・タマナヤガのフェロモントラップによる5月1半旬から4半旬までの累計誘殺数は、7.5頭で平年(14.9頭)より少なかった。(－)
 - ・カブラヤガのフェロモントラップによる5月1半旬から4半旬までの累計誘殺数は、47.3頭で平年(71.8頭)より少なかった。(－)
 - ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・ネキリムシ類に登録のある種子塗沫剤を使用する。
 - ・出芽後は、定期的には場を見回り、食害の早期発見に努める。
 - ・ほ場周辺の雑草は、播種の1週間ほど前に刈り取る。
 - ・茎切断率が15%を超える場合には随時防除を行う。
 - ・防除指針：55 ページ参照



図 18 カブラヤガ（左）とタマナヤガ（右）

Ⅲ 野菜

1 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

- ・タバコガのフェロモントラップによる4月6半旬～5月5半旬の累計誘殺数は、0.3頭で平年（1.0頭）より少なかった。（－）
- ・オオタバコガのフェロモントラップによる4月6半旬～5月5半旬の累計誘殺数は、3.3頭で平年（2.2頭）より多かった。（＋）
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。（＋、早発）
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（－）

(3) 防除対策

- ・防除指針：71～132ページのタバコガ類の項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・タマナヤガのフェロモントラップによる5月1半旬から4半旬までの累計誘殺数は、7.5頭で平年（14.9頭）より少なかった。（－）
- ・カブラヤガのフェロモントラップによる5月1半旬から4半旬までの累計誘殺数は、47.3頭で平年（71.8頭）より少なかった。（－）
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（－）

(3) 防除対策

- ・茎切断率が15%を超える場合には随時防除を行う。
- ・防除指針：73～132ページのネキリムシ類の項参照

3 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・5月25日の調査では被害株率が0%で平年（3.0%）より低かった。（－）
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。（－）
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（＋）

(3) 防除対策

- ・防除指針：100～101ページ参照



図19 さび病の葉の病斑（夏孢子）

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 5月25日の調査では被害株率が12.8%で平年並(14.6%)であった。(±)
- ・ 6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤は抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針：103 ページ参照



図20 ネギアザミウマの被害葉

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 5月25日の調査では、被害株率が8.8%で平年並(7.5%)であった。(±)
- ・ 6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤は抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針：102 ページ参照



図21 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の累計誘殺数は25.0頭で平年(6.5頭)より多かった。(+)
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(+)



図22 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は防除効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系、有機リン系殺虫剤等)を散布する。
- ・防除指針：りんご 138、144、148～149 ページ、日本なし 151、156、160～161 ページ、ぶどう 163、167 ページ、かき 168、171～172 ページ、もも 174～176、178 ページ参照
- ・病害虫発生予察注意報第1号参照

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(+)
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(+)



図23 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

(3) 防除対策

- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。
- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分確保する。
- ・防除指針：138、140～142、147ページ参照

3 りんごの輪紋病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：138、141～142、147 ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：**早い**

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。
(＋、早発)
- ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする(アカリタッチ乳剤は除く)。
- ・防除指針：138、144～146、148～149 ページ参照

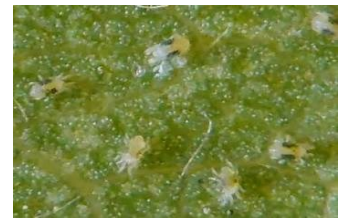


図24 ナミハダニの成虫

5 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の累計誘殺数は0.0頭で平年(2.2頭)より少なかった。
(－)
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・第1世代成虫発生盛期(平年：6月上旬)は重要防除時期なので適期防除に努める。
- ・防除指針：138、143～144、148 ページ参照



図25 キンモンホソガによる被害葉

6 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：**早い**

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は少なかった。(－)
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)

(3) 防除対策

- ・第1世代歩行幼虫発生盛期(平年：6月上旬)は重要防除時期なので、アプロードフロアブル(1,000～1,500倍)を確実に散布する。開花直前にアプロードフロアブルを散布した場合は、トランスフォームフロアブル(2,000倍)に変更する。
- ・防除指針：138、143～144、148～149 ページ参照

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 5月中旬の発病果そうは前年に比べやや多かった。(＋)
 - ・ 6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・ り病した果実や葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・ 防除指針：151、153～155、159 ページ参照



図 26 日本なしのり病幼果

8 日本なしの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・ 6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・ 防除指針：151、153～155、159 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の累計誘殺数は32.1頭で平年(8.4頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 第1世代成虫発生盛期(平年：6月2半旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・ 防除指針：151、155～156、160～161 ページ参照

10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の累計誘殺数は1.6頭で平年並(1.3頭)であった。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 越冬世代成虫発生盛期(平年：5月4～5半旬)の7～10日後に防除を実施する。
 - ・ 防除指針：151、155～156、160～161 ページ参照

11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)
- (3) 防除対策
- ・第1世代歩行幼虫発生盛期(平年：6月上旬)は重要防除時期なので、アプロードフロアブル(1,000倍)を確実に散布する。りんぼう脱落期直前にアプロードフロアブルを散布した場合は、トランスフォームフロアブル(2,000倍)に変更する。
 - ・防除指針：151、155～156、160～161 ページ参照



図 27 ナシマルカイガラムシ寄生枝

12 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量はやや多かった。(＋)
 - ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(＋、早発)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする(アカリタッチ乳剤は除く)。
 - ・防除指針：151、157～158、160～161 ページ参照

13 ぶどうの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・6月上旬は重要防除時期なので、散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・新梢管理を行い棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
 - ・防除指針：163～166 ページ参照

14 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：163～166ページ参照

15 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる5月1半旬～5月3半旬の累計誘殺数は92.0頭で平年(78.9頭)よりやや多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・第1世代歩行幼虫発生期(平年：6月下旬～7月上旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：168～169、171～172ページ参照



図 28 フジコナカイガラムシの雌成虫

16 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：**並**
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・6月22日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・果実への感染を防ぐため、6月中旬までに袋掛けを終了する。
 - ・発生が多い園地では速やかに袋掛けを終了し、ICボルドー412(50倍)を散布する。ただし、薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。
 - ・防除指針：174～175、178ページ参照

17 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の累計誘殺数は18.5頭で平年(10.3頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・第1世代成虫発生盛期(平年：6月2半旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：174～176、178ページ参照

18 もものカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かった。(+)
- ・6月22日にかけての気温は高いと予想されている。(早発)

(3) 防除対策

- ・第1世代歩行幼虫発生盛期(平年：6月上旬)は重要防除時期なので、アプロード水和剤(1,000倍)を確実に散布する。
- ・防除指針：174～176、178ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多く見られた。(+)
- ・植付け時(10月下旬、11月上旬)の地温は平年並に推移した。(±)
- ・6月22日にかけて気温は高いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・り病株の抜き取りを徹底する。
- ・適期の掘取りに努める。
- ・掘取り後は速やかに水洗・乾燥する。
- ・防除指針：192ページ参照



図 29 球根腐敗病り病株の生育期後半の症状

2 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・チューリップ予察ほ場(無防除)における5月4半旬までの黄色水盤1個当たりの累計有翅虫飛来数は、106頭と平年(257頭)より少なかったが、5月5半旬の調査では、102頭と平年(46頭)より多かった。(±)

(3) 防除対策

- ・アブラムシはモザイク病を伝搬するため、モザイク病り病株の抜き取りを徹底する。
- ・生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
- ・防除指針：193、215～216ページ参照



図30 チューリップに寄生するアブラムシ有翅虫

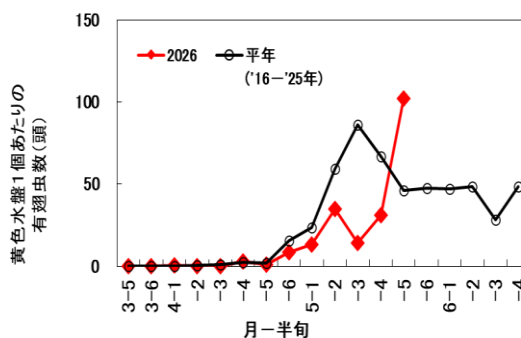


図 31 アブラムシ有翅虫の飛来消長

令和8年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」
- 富山県の運動期間：農薬の繁忙期である「4月1日～9月30日」

令和8年度水田畦畔等の草刈り運動について

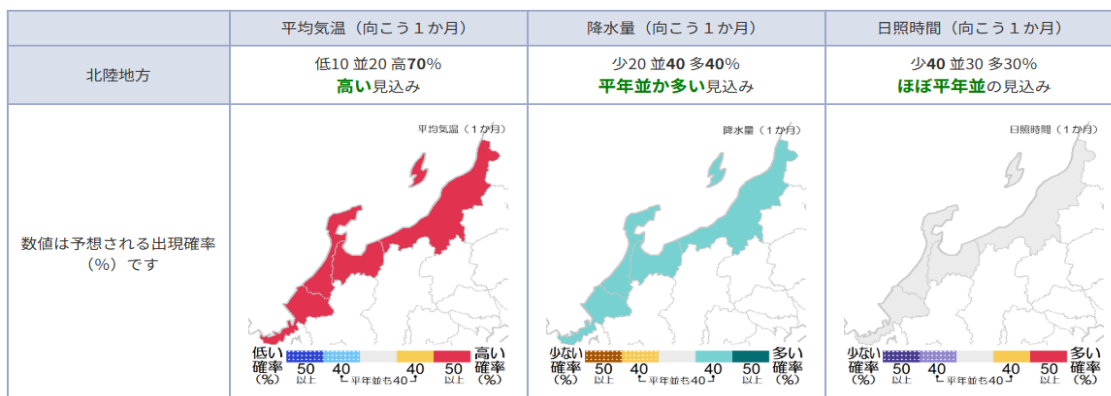
- 斑点米や着色米の発生を防ぐため、斑点米カメムシ類や病原菌の発生場所である畦畔や雑草地の草刈りを県下全域で徹底する
- 運動期間 6月26日（金）～7月5日（日）
一斉草刈り日 6月27日（土）～6月28日（日）

北陸地方 1か月予報

5月21日
新潟地方气象台 発表

<向こう1か月（5/23～6/22）の天候の見通し>

- ・期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。



図は気象庁ウェブサイト

(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974

ホームページ URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>